

# 令和3年度 第1回 大井川水系流域委員会 議事要旨

## ■開催日時・場所

日 時：令和3年10月1日（火） 10:00～12:00

場 所：対面+WEB会議

## ■出席者

土屋委員長、戸田副委員長、板井委員、大石委員、大久保委員、絹村委員、鈴木委員、竹内委員、村上委員、湯浅委員

## ■議事内容

### （1）最近の河川事業を取り巻く話題

- ・ 7月8月の総雨量が多かったが、水位はそんなに高くなかったと理解した。その中で、河岸侵食の被害がみられた。このように、大井川は中小洪水でも被害がでることから、これを見越した侵食対策を踏まえた管理をしていただきたい。  
⇒引き続き侵食対策事業を進めていく予定である。
- ・ 流域治水プロジェクトで河川管理者以外に協力をもとめて、進めていくことになるが、電力事業者に協力を求めるには、事前放流の定量的な効果を示す必要がある。  
⇒事前放流については、詳細にダム管理者と調整をしているところで、こちらも順次進めていきたいと考えている。事前放流の効果の評価についても、前向きに検討を進めていきたいと考えている。
- ・ P6について、15ダムによる事前放流の実施とあるが、実施手順が決まっていれば簡単に示していただきたい。  
⇒開始基準となる基準雨量は決定している。各ダムによる事前放流の効果や運用については検討中であるが、井川ダム、畑薙第一ダムは容量が大きく、事前放流の効果が期待できる主要ダムとして考えている。
- ・ 水防災教育学生サポート制度を県内の各大学に広めていってほしい。  
⇒承知した。

### （2）大井川水系河川整備計画の点検について

質疑なし

### （3）直轄河川改修事業の点検

- ・ 加速化5ヶ年計画の内容について教えていただきたい。特に気候変動で外力が増加していく中で、将来的には目標値をどう考えるのかという議論も出てくると思うが、現段階では、対策の加速化は非常に大事な気候変動適応策だと考える。  
⇒加速化計画は、現在、整備計画で計画されている事業を基本的に前倒しして、2040年度完成目標をもう少し早めることを考えている。

- ・水生生物の生息状況が悪化していることを念頭において、治水事業を進めていってほしい。河道掘削、樹木伐採を実施する時、河岸形状を単純化するような工事は生物にとって好ましくない。川岸の植生は残す等、生物保全に配慮した対策を実施してほしい。P6の神座地点については、河道が流れて旧河道が切り離されていくことはよくあるが、ワンドが切り離されることが河道整備であまりにひどく実施されると、少し問題がある。支流の合流点がスムーズに本川に合流できるように、ワンドとの連続性を保てるような工事を進めていただきたい。⇒頂いたご意見については、今後の事業に反映していきたい。また、環境情報図等を確認しながら、貴重種の情報を把握しつつ進めていきたい。
- ・P5の低水護岸整備等の工事は、瀬替えにより流路が変化し水生生物の生息環境が変化することを危惧している。護岸前面に、本流がついていないところで基本的に整備を進めていただきたい。河川工事について協力はするが、アユの生息環境の向上についても計画の中に入れていただきたい。⇒瀬替えの手法も含めて事前に協議させていただく中で、最良の方策を立てて進めていきたいと考えている。

#### (4) 大井川総合水系環境整備事業について

#### (5) 大井川総合水系環境整備事業の再評価

- ・蓬莱橋の右岸側の開発が進むことで、左岸側の魅力も増すと思う。モニタリング期間のモニタリングをどのように実施するのか。人数の確認はどのように実施する予定か。⇒蓬莱橋の左岸側は施設が完成した時点で、施設来訪者数を調べていきたい。右岸側については、今現在、利用者数をつかめていない状況である。整備することで、来訪者数がどの程度増えるのか、確認していきたい。人数は、島田市の観光客数の集計を使用する予定だが、確認しておく。⇒近年はコロナの影響で人の流れを正確に測ることができる仕組みがある。そういったものも利用してほしい。
- ・環境整備の中で、水の中の環境の整備にも取り組んでほしい。本川でアユの友釣りを実施できないのは、水質、水量の問題ではないか。⇒一朝一夕には解決できる問題ではないので、関係者のみなさんと相談しながら、できることから進めていきたいと考えている
- ・右岸側整備による左岸側への影響や効果についてどう把握していくか？今回のCVM（の便益計測範囲）は10km圏内を対象としているのか？⇒前回調査と同様に、今回もアンケートにより、年あたりの訪問回数の変化があらわれている10km圏内を設定した。観光の効果についてはマニュアル等で手法が定められたが事例も少なく、今回は実施していない。モニタリングの左右岸整備の相乗効果については、島田市と相談して、整備効果がみられるまとめ方をしていきたい。
- ・費用対効果は地元には大きいのか、観光客の方に多いのか、別々に求めた方がよかったのではないか。蓬莱橋の右岸側の整備についても歴史的な背景を踏まえた整備を検討する必要がある。
- ・観光客（地域外からの来訪者）が蓬莱橋を往来する際、木橋に慣れていないことから、危険

を感じることも想定される。歴史的・景観的な問題があるため、難しいと思うが、蓬莱橋を安全に往来するための施設整備を検討していただきたい。

⇒右岸側の整備内容については、歴史的な景観を損ねないような整備を、島田市と協議しながら進めていきたい。蓬莱橋の安全施設については、頂いたご意見を島田市に伝えたい。

- ・ 水辺に慣れていない市民が来訪する可能性があるので、親水護岸の整備にあたっては、安全に利用するための説明が必要である。蓬莱橋右岸については、右岸側にも訪れたいという気持ちになるものを整備してほしい。また、整備事業については、それぞれの地区の地名の由来、地形、流れの様子について学習する場を、防災教育等の中に取り込んでいただきたい。

⇒右岸側の整備については、島田市が社会実験で公募しており、約3団体から手が挙がっている。施設の案内ガイドの計画もあり、島田市と協力して進めていきたい。

- ・ 蓬莱橋の右岸側には、救急車がアクセスできるような道路はあるか？蓬莱橋の右岸側を利用する人のために、右岸側にも駐車場を整備する必要がある。また、親水護岸の整備にあたっては、川辺の自然と親しめる施設も整備していただきたい。

⇒現況でも右岸の橋のたもとまで下りてくることはできるが、来訪者の駐車スペースはない。右岸側の駐車場整備については、島田市を含め検討中である。また、川辺の自然と親しむ点については、親水護岸整備の中で計画していきたい。

- ・ 大井川総合水系環境整備事業の継続について承認された。【満了一致】

## (6) 今後の進め方

- ・ 河川整備計画の点検については、直轄河川改修事業は概ね良好に進んでおり、現行の整備計画の整備目標を変更する必要はないことに了承された。

以上